# 矢崎ニュース発刊す!!

矢崎ニュース

発行所
矢崎電線工業株式会社
総務部広報課
東京都港区芝田村町5ノ2
電話 芝㈣7171～9番

# 血の通つた親睦を

## 発刊に際し従業員諸君へ

社長 矢崎貞美

## お互の理解が第一

このたび矢崎ニュースが、いよいよ発刊されることになつたが、この機会に、その発刊の意義について、基本的な私の考え方を述べてみたいと思う。

**第一**に、血の通つた〃上意下達〃と〃下意上達〃を計るということである。企業が大きくなればなるほど、段々と上と下とは血が通わなくなつてくるのが常であるけれども、これからの激しい企業の競争に於ては、すべての従業員もある意味では社長であり、上も下も常に意気がぴつたり合つていなければならない。上と下ということより仲間同志がいつもガッチリ手を組んで進んで行かなければ企業の発展は期し得ない。しかしその手の組み方が強制的な、押付け的なものであるならば、何にもならないし、すぐに崩れてしまう。こういう状態では、上意下達も下意上達も結局は無意味な事になつてしまうのは明白な事であろう。要は従業員の「心から」の「ほんとうの理解」が大切な大前提となつてくるわけである。

このほんとうの〃理解〃と〃自らの納得〃を得るためには、どうしても従業員一人一人が常に全体的な立場に立脚して物を考え、判断するということが必要になつてくる。それを得るためには、どうしてもこの広報紙が大きな役割を果すということである。

例えば天竜工場を計画し、御殿場工場を建設するというと、いかにも唯「矢崎」の金儲けのための企業拡張だと単純に考え勝ちであるけれども、この建設の真の意図するものは「そうしなければ、今の企業競争には勝ち得ないということ。矢崎というものの発展が行き詰つてくる」という科学的な判断からだということである。戦いに敗れない為には絶対に企業の系列化と整備が必要であり、それによつて「高度の技術」を売るということで、この途以外には矢崎の繁栄はあり得ないということである。その目的完遂のための建設だというわけである。

人間に例えれば地理的に云つても御殿場工場が頭、沼津、島田工場が胴体、天竜、鷲津工場が両脚であるということが出来る。要は、こうすることによつてのみ、三千名の従業員の、生活を、より明るくすることが出来るという事である。更に小さな例を考えてみよう。

「日本自動車計器株式会社」の名儀を、「矢崎計器株式会社」という名前に変更した。「社長の独断で、ワンマン的な専断で変えてしまつた」と評するかも知れない。しかし真実の理由というものは、「矢崎」という名前は海外に於ても、非常に信用が厚いという点、「日本自動車計器」という名前には、これとまぎらわしい幾つかの会社があるという点、あるいは、名前が長つたらしくて、時によればお客さんが電話するような時にも、ある意味では不便を与えているというような点など、いろいろその理由があつての事で決してワンマンの一人よがりの変更では決してないということである。お互の理解というものが如何に大切であるかが分ると思う。

要するに何事においても、その意味を「正しく」「素直に」受取つて納得がいくような体制をとつてはじめて所謂〃血の通つた〃「上意下達」と「下意上達」があるわけだということである。

## 正しい批判の眼

**第二**は思想統一の問題である。思想統一というと如何にも、何か強制的な匂いがすると思うかも知れないが、「何が正であり、何が邪であるか」ということを、はつきり理解することを云つているわけで、例えば総評の指導のように企業を潰してまでも闘争を事とする事が正しいかどうか……この広報紙を通じて「正しい批判の眼」を養い、すべての従業員の人々が向上発展していくことである。

## よき潤滑油であれ

**第三**としては、〃我々の前進の為に〃ということである。

我々は、どんなに困難に満ちた戦いであつても、それを乗越えて、前進する以外には途はないわけで、停滞することは許されない。停滞ということは、敗北を意味する。敗北ということは、三千名の従業員が路頭に迷うことであり、これは断じて許されない。従つて前進するためには、単に〃上意下達〃とか〃下意上達〃が理解の上に立つてスムースに交通整理が出来たというだけでは出来ない。その上に立つて、各個人が、「強い感度のレシーバーであり送信器」であらねばならないということ、別な例で云えば歯車が良く噛み合つていても、そこに電流が流れなければ回転しないし、更によい潤滑油がなければ、常によく回転することはむずかしい。この感度のよい送信器でありレシーバーを「常に維持し、更によい感度のものにするために、そして更によりよい潤滑油を補給する」役目がこの広報紙であるといつても過言ではない。

## 確固不抜の矢崎に

**第四**は、将来の「矢崎」の風格を形成する為にである。矢崎貞美は、肉体的には、永遠のものではないわけで、よい指導者、よい従業員が更にどんどん輩出してますます「矢崎」を確固不抜のものにしなければならないわけだが、そのためには日ごろから常に、よき伝統を養い、創意と努力を積み重ねていかなければならない。そのためにも常に共通の広場の中にあつてお互いが磨き合い、研究し合いながら進んで行かなければ〃よき伝統と風格〃は育つていかない。この「共通の広場」こそ広報紙に外ならないと考えるわけである。

更にいうならば、よき伝統をすべての人々によく滲透させると同時に、また、その伝統を受継いだならばその人々は、更によりよき伝統を創り上げていくことが大切である。この広報紙がよりよき伝統を創り、偉大な風格を創造するための「よき標示器」となつて貰いたいと強く望む次第である。

最後に、今度の台風十五号によつて、想像に絶する被害を受けた中京地区の関係者各位に対して「十日後の十万円よりは、現在のニギリメシ」が必要であると痛感し、とりあえず被害者の方々に生野菜等を送らして戴いたことを附加して発刊の言葉と致したい。どうか従業員の皆さんも、この広報紙一枚一枚が、「矢崎」の歴史であると考えて、大切に、あたたかい気持で育て上げて戴きたいと思う次第である。

---

## 矢崎社長 二論文を出す

このほど矢崎社長は、自動車技術会、鈴木自動車工場からそれぞれ論文を求められ提出したが、その内容は大体次のようなものだつた。

▽**自動車技術会**

中小企業を近代化し、大企業の延長としての組織を作り、低賃金と、非能率をあらため、また部品メーカーとしては、米国にみ劣らぬ生産技術をもつてきたのだから、これからは日本にぴつたりあつた、日本的な技術を確立することが大切である。

▽**鈴木自動車工業**

二輪車、三輪車に対する所感を書いたもので、二輪車は、自転車にかわるもので、大衆の生活と直結していなければならないし、三輪車は、表通りから家庭の入口までという考え方で、軽三輪がのびていくという見通しを物語つていた。

---

## 各社自慢の新型車

### 自動車ショー開かる

第六回全日本自動車ショーは、十月二十四日から十一月四日まで中央区晴海町の会場で、内外の注目をあつめて開かれた。各社自慢の新型車が、会場一杯に並んでいる有様は、見る人をして称讃とタメ息まじりの声をもらさせていたが、連日出足は好調で、既に自動車は国民の足だという感じを多くの人々に与えていた。

矢崎電線、計器も三号館の二階の一角に陣どつて多くの人々の目にとまつていたが、ともあれ、合計三一七台にものぼる自動車ショーは、日本の産業の発展のバロメーターとして大きな意義があるわけだ。

---

## 矢崎精神で大活躍

### 伊勢湾台風 各方面から感謝さる

**伊勢湾台風により、中京経済圏はズタズタにひきさかれてしまつたが、この困乱と廃墟の中にあつて矢崎の人々は、雄々しくも強く、いかんなく矢崎精神を発揮し各方面から大きな驚きの目で感謝されている。**

冠水一・五米の新三菱大江工場（名古屋市港区）に救援隊が派遣されたのは去る九月二十九日（二十六日が台風）の台風直後だつた。この時分は新三菱の従業員も大半は、台風被害者であり出勤率も二三%ぐらいの時で部課長クラスだけが出勤しており、いわば、まつたく「どこから手をつけてよいのか、手のほどこしようもなかつた」時だつた。

この混とんとしたときに、矢崎の救援隊がいくとは恐らくはじめは、予期しなかつたことであつた。とにかく、矢崎一社だけの、二十名の作業隊は、泥水の中で歯を喰いしばつて各社の応援がくるまで頑張つた。勿論、輸送機関のマヒした中にあつても、矢崎では警戒の巡査にとがめられながらも危険をおかして、五トン積トラック二台、ライトカー二台を派遣したのもこの時であり、どれほど復旧作業に貢献したかは、筆舌[illegible]らわされないが、[illegible]人員と機動[illegible]現地にむけたわけである。しかも、この現地にいつた人々の態度こそ、ややもすれば虚脱状態にあつた新三菱の従業員をどれほどはげましたことであろうか。

村上名古屋支店長にいわせれば、社長の先手主義が第一にこの真価を挙げた一番の理由であるが、派遣した人も別に競争意識をもやしてやつているわけでなく、また格別人をえらんで派遣したわけでもない。要は、うつたり、かつたりしてモウケルという丈でなく、その上に精神的なつながりをもつていくという矢崎のよさが、ヘッキリ多くの御得意さんに理解して戴いたことは非常によいことだと語つてくれた。

ともあれ延人員三三八名の人々が延台数五四台の機動力と相まつて、明日の建設のために自分の会社のような否それ以上の熱と力で、作業に挺身していつたことは大きな波[illegible]感動を各関係者の人々に[illegible]るようだ。

新三菱大江工場で
大活躍する矢崎の若人